



4月末に岩手県宮古市で一番大きな建材店を訪問しました。従業員の人命や職場が流され、大きな痛手を受けた社長を元気付けるつもりでお邪魔しました。しかし、流木を活用し仮設住宅向けの新建材開発に取り組む社長の姿、こちらが元気を頂きました。私自身「前へ、前へ」と進む力をもらい、新しい生活へのきっかけ作りができました。

●矢野孝昭さん(財団法人 東京都防災・建築まちづくりセンター 顧問)



ホームページに関する制作から運営までをバランスよく提案できる会社で、私は運営・更新で顧客とユーザーの橋渡しをしています。普段からパソコンでの仕事中心のため、私のリフレッシュはもっぱら愛犬くあ(パピヨン1歳♀)と遊んだり、じゃれあったりしています。お気に入りのパワースポットはくあと散歩する川崎大師です。

●青山由香里さん(有限会社リンクステージ ホームページ運営担当)



毎月第1木曜日に掲載している「本屋さんの本音」など、企画紙面を制作しています。昨年結婚しまして、結婚生活の光と影を、日々楽しんでいきます。渋谷に事務所を構えてもうじき2年。事務所には自慢の(?)ルーバルコニーがありますので、仕事ご持参の上、ぜひともお気軽にお出で下さい。

●岡田光司さん(デザイン事務所「SALT」代表)

出版広告の仕事で2年間経験し広告局に戻ってきました。出版広告は、新聞広告と異なる点もたくさんあり、大変勉強になりました。そこで培った人脈や経験を現在担当させていただいている食品業界のお得意先への提案に活かしたいと思っています。お隣の国が大好きで、食や銭湯、“韓方”コスメが肌に合い、疲れがたまるトリフレッシュにおじゃましています。

●中川良子(毎日新聞社広告局第一広告部)

主にBtoB企業に対し、テーマを絞った企画を提案し、連合広告のシリーズを手がけています。休日は、週一回社会人チームで“草サッカーのペレ”を目指して奮闘中です。妻と入籍して13カ月がたちましたが、晴れて6月25日に地元の北海道で披露宴を行うこととなりました。これから益々貴社におじゃましますので、どうぞよろしく願いいたします。

●川端政貴(毎日新聞東京本社ビジネスソリューション本部)



おじゃましてます されてます

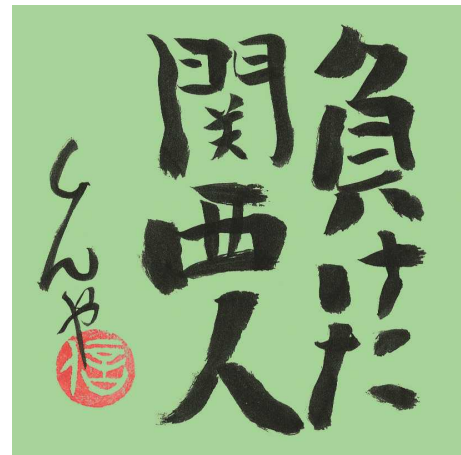
えらい すんまへん。



1993年世界の広告賞の頂点であるカンヌ国際広告祭のグランプリを獲得した日清食品カップヌードルオリジナルシリーズ。実はこの企画にはタイト宮崎晋CD率いる大貫卓也さんをはじめとする博報堂チームが企画をしたものです。なんで原始時代なのか。ぼくが聞かされたぶったまげたストーリーは次のようなものでした。大貫卓也さんはジャンクなフードが大好き↓ことにカップ麺に関しては相当なこだわりがある↓その大貫さん、当の「日清カップヌードル」はそれほど大好物というわけではない↓でも「おなかですいている」時にあんなうまいものは

ない↓そうだ、カップヌードルは「おなかですいている」人が食べるんだ!↓ではこの世で一番「おなかですいている」のは誰だ?↓そうだ!ねんがらねんじゅう食べ物を追いかけていた原始人だ!という発想です。ここから前田知己さんによるコンセプトワード「おなかですいてる人はいませんか?」も生まれました。

前回このページでお伝えした「負けた関西人・中島信也大貫卓也にやられる篇」の時点でこの企画はすでに出来上がっていたわけですが、しかもビデオによるストーリーボードがあった。紙芝居を動かしたような簡単なつくりのビデオコンテですが、スタッフが本気で原始人の声を表現しており、この音声はほんちゃんのCMでも使われています。ただそのストーリー。江戸前です。マンモスが上手からフレームイン↓原始人たちが追いかけている↓下手にフレームアウト。一間あつて下手からマンモスフレームイン↓追いかける原始人↓上手



にフレームアウト。つまり行つて帰つてはい、おしまい。江戸前やあ。中でもない起らない。「なんか変なことやるとザ・コマーシャル!みたいななるちゃうからね!」と大貫さん。そうです。そのとおりです。ほくも、そう、思つてました!と江戸前に調子を合わせる負けた関西人。「でもほんまにこれだけでええの、かないや、ええんや、ええの!」と心から納得する負けた関西人。

大貫さん、マンモスへのこだわりは尋常と違います。今のようにCGも使えなかった当時、結果的に「ミニチュアマンモスのコマ撮り」という方法論に落ち着くんですが、大貫さんの希望は「世界一のミニチュアマンモス」を作ること。まず、コマ撮り特撮VFXの大家といわれている方を見つけてます。そこでその方から日本だと誰々、世界だとこれこれ、という

このシリーズ、「マンモス」から始まりました。大貫さんの希望であった「実物の巨大マンモス」による撮影こそ却下されてはいましたが、

アドバイスを聞き出す。そこで日米マンモス対決が開催されることになりました。ミニチュアマンモスを日米のスタッフが競作。そんなぜいたくなこと、いままでのCM人生では経験したことがなかったのですが、これが大貫さんのクオリティの秘密やねんな、と妙に納得したりしたわけです。10日ほどたって、マンモスが出来るようになります。ロスアンゼルスからもアメリカンマンモスが来日します。むむむ!負けた関西人は判断しません。負けた関西人は大貫さんの顔色だけを伺います。机の上に並んだ二体のマンモス。毛並みの美しいジャパニーズマンモス。毛並みとワイルドなアメリカンマンモス。大貫卓也さんは言いました。「こっち!」運命の対決とその後の予想外の展開は次号です。

中島信也(なかじましんや) CMディレクター。1959年福岡県生まれ。(株)東北新社専務取締役。1982年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。(株)東北新社入社、1983年TVCM演出家となる。武蔵野美術大学客員教授、宣伝会議コピーライター養成講座講師などを務める。代表作にカンヌグランプリ「日清カップヌードル」"hungry"、ACC賞グランプリ「サントリイ燃焼系アミン式」、ADC賞グランプリ「サントリイ伊右衛門」。東京アートディレクターズクラブ会員。「天島美容室 THE MOVIE」監督。